

KITAKYUSHU

北九州市

インバウンド誘致
アクションプラン

(案)

2024

2027

Inbound Invitation Action Plan



KITAKYUSHU

インバウンド誘致アクションプラン

2024 – 2027

CONTENTS

I	アクションプランの策定にあたって	P. 4
II	インバウンドの現状	P. 7
III	コロナ禍後のインバウンドの傾向	P. 10
IV	北九州市におけるインバウンドの現状と課題	P. 13
V	北九州市のポテンシャル	P. 18
VI	目指す姿と戦略	P. 23
VII	4つの視点と8つの方策と17のアクション	P. 30
	視点1 北九州市の魅力をしっかりと届ける	P. 32
	視点2 観光資源を発掘し磨き上げる	P. 34
	視点3 回遊性向上を図るため「線」でつなぐ	P. 40
	視点4 広域で連携して「面」で売り込む	P. 41

I アクションプランの策定にあたって

I アクションプランの策定にあたって

01 背景と目的

新型コロナウイルス感染症により一時的に消失したインバウンド需要は、感染症法上の位置付けが5類に移行した後、堅調に回復しています。

そのような中、国においては、「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」をキーワードに新たな「観光立国推進基本計画」（2023（令和5）年3月・観光庁）を策定しました。この計画では、大阪・関西万博が開催される2025（令和7）年に向けて、都市部や一部の人気観光地に集中している旅行者を、地方やこれまであまり知られていなかった目的地へと誘客することで、地域経済を潤わせ、中長期的に「持続可能な観光地域づくり」を実現しようとしています。

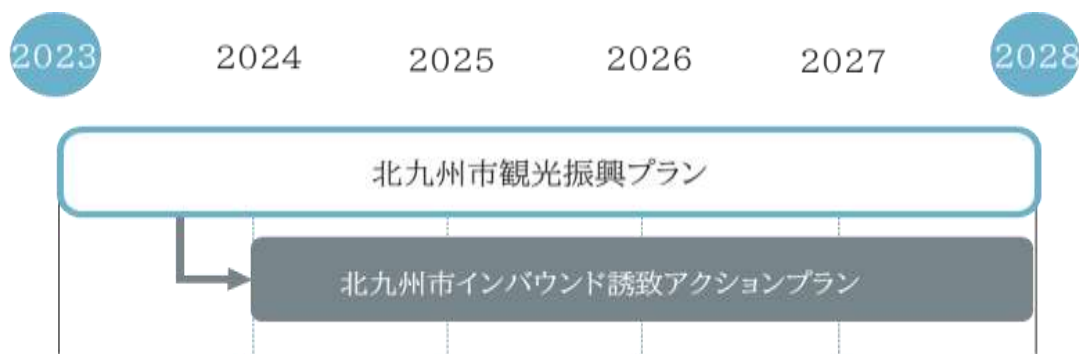
こうした中、北九州市の経済を活性化させ、「稼げるまち」を実現していくためにも、今後、拡大が期待されるインバウンド需要を戦略的に取り込むことが重要です。

北九州市は歴史・文化・自然・食など、素晴らしい観光資源を有しながら、そのポテンシャルが十分に発揮できていないと言わざるを得ません。

このような中、全国的な潮流を踏まえ、今回策定する「北九州市インバウンド誘致アクションプラン」を推進することによって、北九州市のポテンシャルを開花させ、「インバウンド観光都市」としてのプレゼンスを高めます。また、本アクションプランは、2023（令和5）年4月に策定した「北九州市観光振興プラン」のインバウンド戦略の取組を具体的に示して推進するものです。

02 取組期間

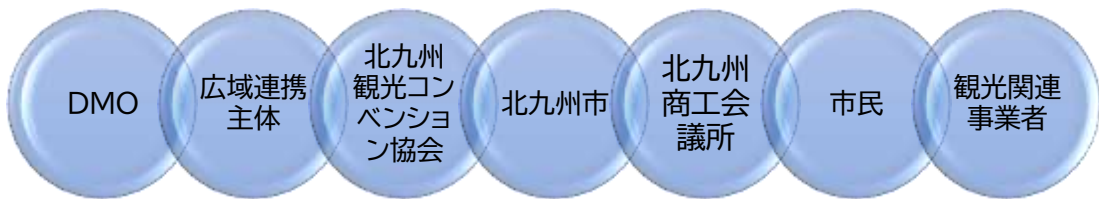
取組期間は、「北九州市観光振興プラン」に合わせ、2024（令和6）年度から2027（令和9）年度までの4年間です。



03 | 推進体制

本アクションプランでは、北九州市の関係部署がインバウンド誘致に向けて同じベクトルで組織横断的に推進していきます。

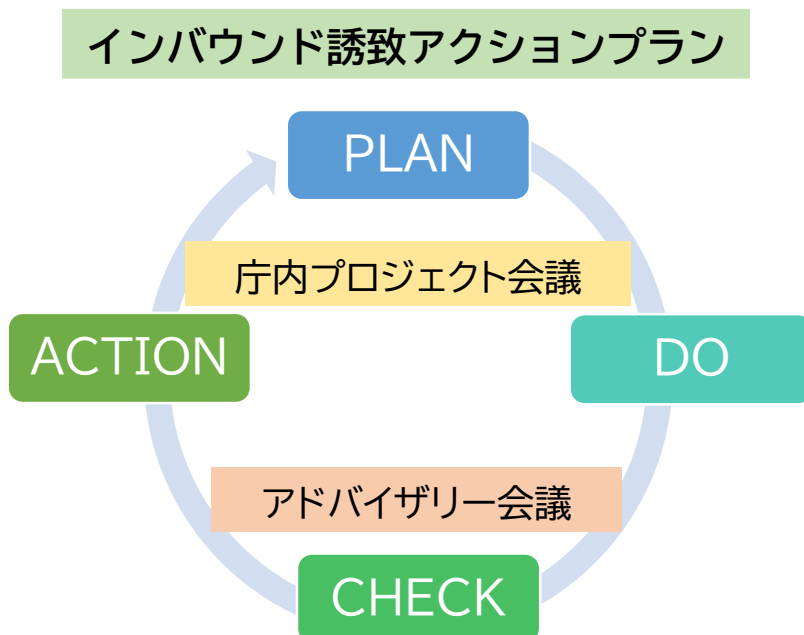
また、観光振興団体、民間事業者、市民及び北九州市などが連携することはもとより、それぞれの役割を果たしながら、まちぐるみでインバウンド観光の振興に取り組みます。



04 | プランの進捗管理体制

本アクションプランは、有識者、学識経験者、外国人などの外部委員で構成するアドバイザリー会議と庁内プロジェクト会議によって、進捗管理を行っていきます。

また、社会情勢の変化や国の動向などにより、新たな対応が求められる場合は、取組期間内であっても必要に応じて見直しを検討します。



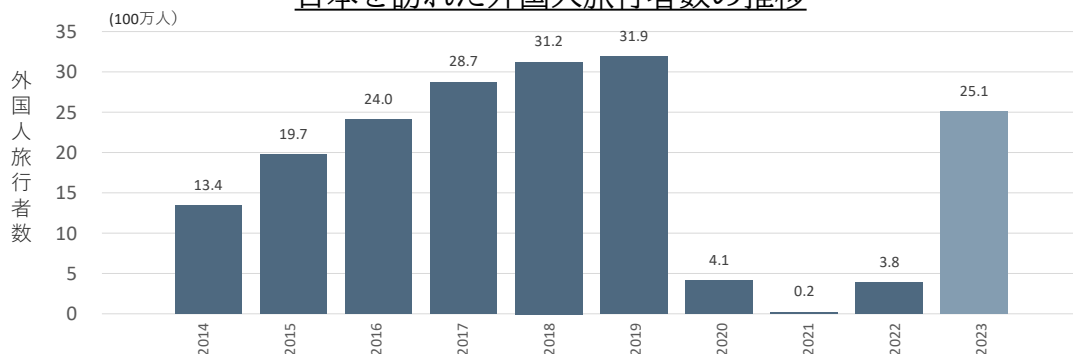
Ⅱ インバウンドの現状

Ⅱ インバウンドの現状

1 日本を訪れた外国人旅行者数の急速な回復

日本を訪れた外国人旅行者数は、コロナ禍前の2019（令和元）年がピークの約3,190万人となっています。2020（令和2）年～2022（令和4）年に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少したものの、2023（令和5）年は約2,510万人（推計値）と急速に回復しています。

日本を訪れた外国人旅行者数の推移



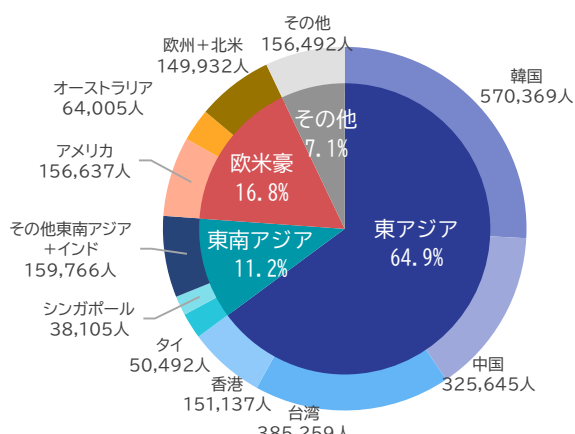
資料：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」

2 九州への入国者の割合はアジア圏が9割超

全国の2023（令和5）年9月に日本を訪れた外国人旅行者の内訳を見ると、アジア圏の比率は76.1%（東アジア64.9%、東南アジア11.2%）、欧米豪圏の比率は16.8%となっています。

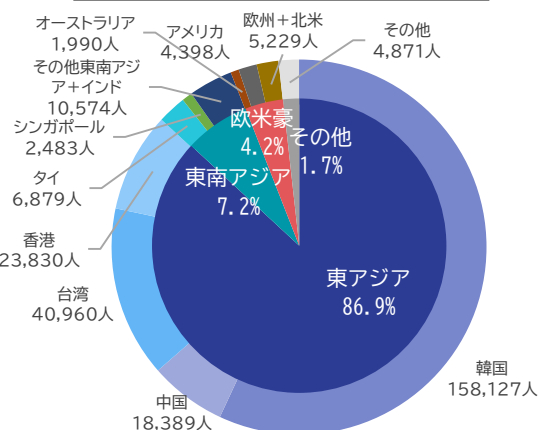
一方、九州へ入国した外国人旅行者の内訳を見ると、アジア圏の比率は94.1%（東アジア86.9%、東南アジア7.2%）と全国より高くなっており、欧米豪圏の比率は4.2%と大幅に低くなっているのが特徴です。

2023（令和5）年9月の
各国・地域別の内訳（全国）



資料：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」

2023（令和5）年9月の
各国・地域別の内訳（九州）

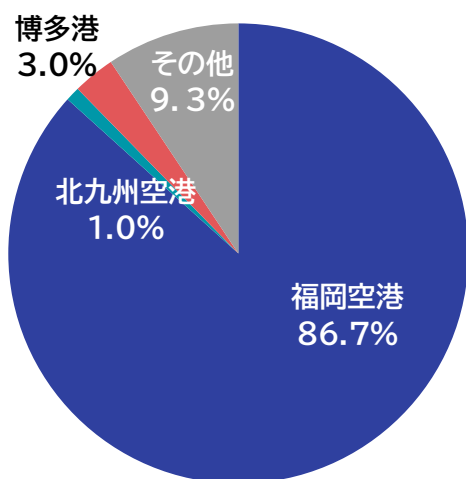


出典：国土交通省九州運輸局「九州への外国人入国者数」

3 九州への入国者の約9割が福岡空港から入国

九州へ入国した外国人旅行者のうち、86.7%が福岡空港から入国しています。また、博多港から入国した外国人旅行者も、北九州空港の約3倍となっています。

2023（令和5）年1月～9月の主な空港・港湾別外国人入国者数



空港・港湾名	入国者数(人)
福岡空港	1,883,803
北九州空港	21,865
博多港	64,234
佐賀空港	11,034
対馬 (厳原港・比田勝港)	68,943
熊本空港	36,463
大分空港	5,993
宮崎空港	4,382
鹿児島空港	15,718
その他	60,729
合計	2,173,164

資料：国土交通省 九州運輸局
「九州内の主な空港・港湾における外国人入国者数の推移」

Ⅲ コロナ禍後のインバウンドの傾向

Ⅲ コロナ禍後のインバウンドの傾向

1 一人当たりの支出額・滞在日数の増加

日本を訪れた外国人旅行者1人当たりの支出額は、コロナ禍前である2019（令和元）年の15.9万円と比較して、2023（令和5）年の支出額は、21.2万円（速報値）と増加傾向にあります。

また、平均滞在日数も2019（令和元）年は8.8日でしたが、2023（令和5）年は10.2日（速報値）と増加しています。

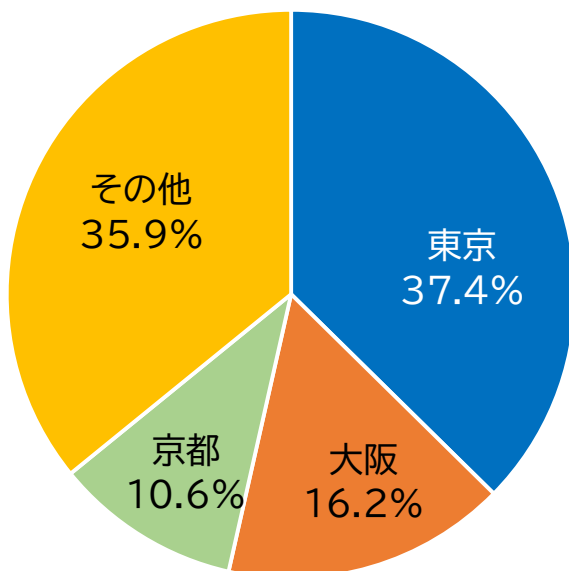
資料：日本政府観光局(JNTO)「訪日外国人消費動向調査」

2 訪問先の地方分散化

国は、2023（令和5）年3月に「観光立国推進計画」を策定し、都市部や一部の人気観光地に集中している外国人旅行者を、地方やこれまであまり知られていなかった目的地へ誘客をすることで地域経済を潤わせ、中長期的に「持続可能な観光地域づくり」を実現しようとしています。

2023年に日本を訪れた外国人旅行者の宿泊地域は、東京、大阪、京都で64.2%を占めており、依然として増加傾向にあります。そのような状況を打開するため、国では地方部における魅力的なコンテンツの創出等により、地方部における滞在日数を増加させることとし、一人当たりの地方部宿泊数を令和7年までに令和元年水準の1.4泊から2泊とすることを目標としています。

2023（令和5）年の外国人旅行者の宿泊地域割合



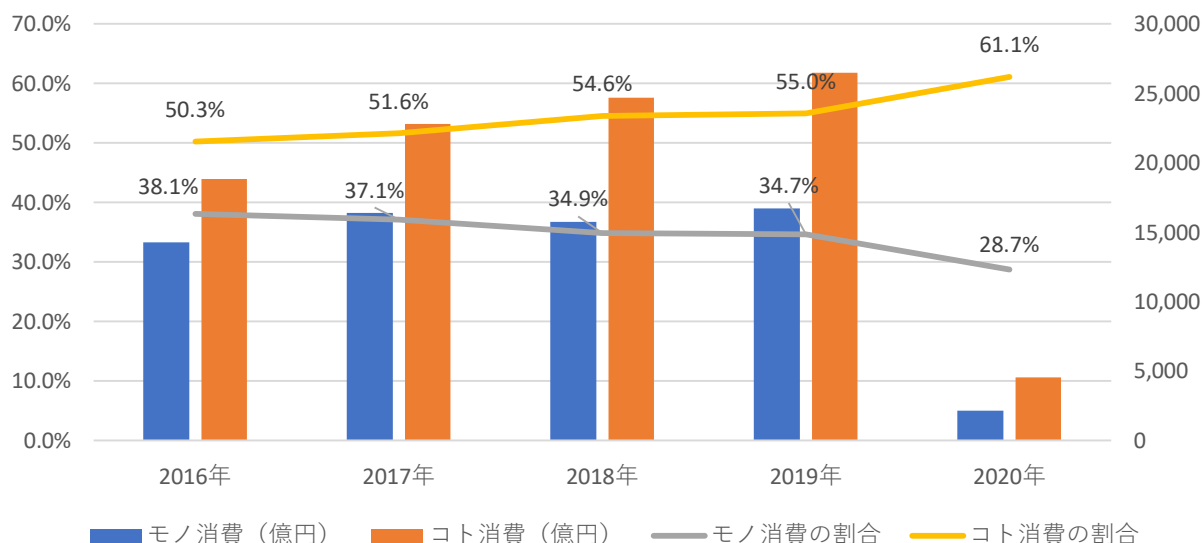
資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

3 観光分野におけるデジタル化の推進と ニーズ・志向の多様化

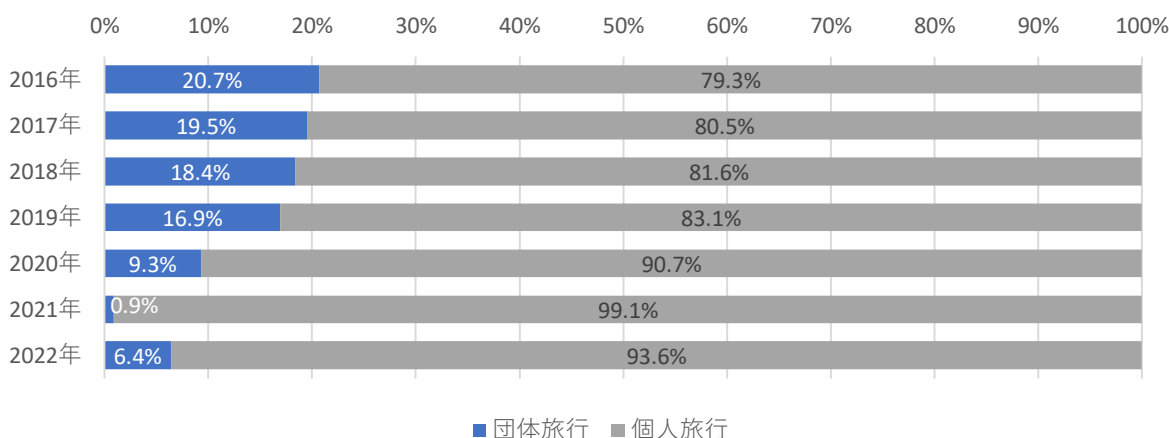
コロナ禍で、オンラインによる旅行予約や非接触で安心なキャッシュレス決済が普及するなど、外国人旅行者にとって旅の利便性が高まってきています。こうしたデジタル化の推進によって、旅行者の行動・消費傾向などのデータを把握し、そのデータに基づいた事業の立案を行うなど、政策効果を高める仕組みづくりも推進されています。

また、日本を訪れた外国人旅行者の新たな傾向として、①「モノ消費」から「コト消費」へのシフト、②「団体旅行」から「個人旅行」へのシフトなど、ニーズ・志向が多様化しています。

日本を訪れた外国人旅行者のモノ消費とコト消費の金額と割合



団体旅行と個人旅行の比率



資料: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外国人消費動向調査」

IV 北九州市におけるインバウンドの現状と課題

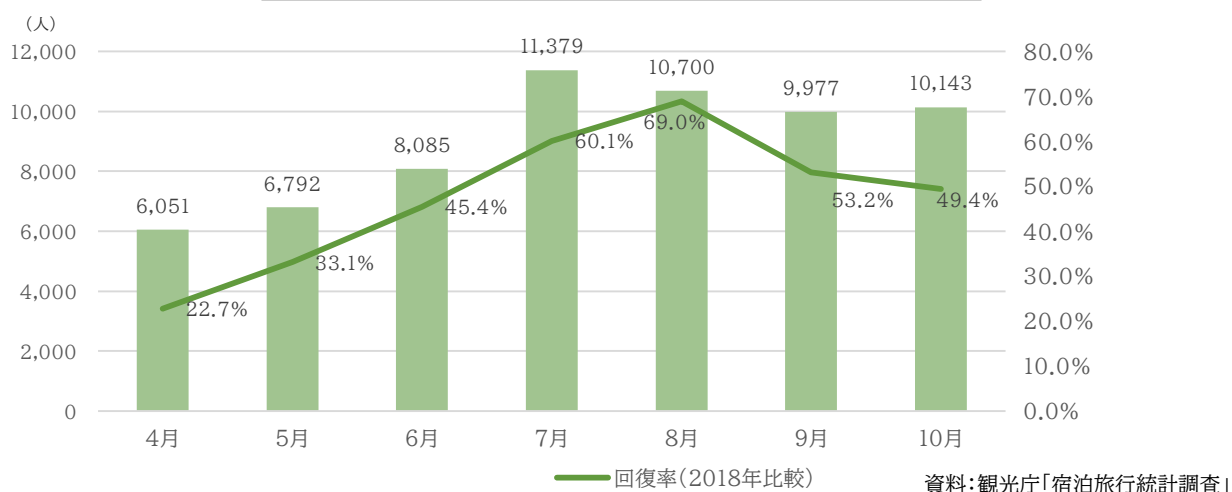
IV 北九州市におけるインバウンドの現状と課題

01 北九州市の現状

1 外国人宿泊者数の回復の遅れ

コロナ禍後、日本を訪れた外国人旅行者数は全国的に回復傾向にあります。一方、2023（令和5）年における北九州市の外国人宿泊者数は、2018（平成30）年と比較して、回復率54.9%（6月～10月の平均値）と戻りが遅れています。その理由は、中国人旅行者が回復していないことや、北九州空港の国際定期路線が回復途上であることなど、様々な要因が重なり合った結果と考えられます。なお、同時期の入国者数の日本全体の回復率は87.1%、九州の回復率は64.5%となっています。

北九州市の外国人宿泊者数（2023年）と回復率



2 アジア圏の旅行者が多く、欧米豪の旅行者が少ない

北九州市は、九州観光を目的としたアジア圏からの訪問が多いことから、これまでもアジア市場に対して、積極的なプロモーションを行ってきました。なお、2018（平成30）年に北九州市を訪れた外国人旅行者数は、韓国、台湾、中国の順となっています。

2018（平成30）年に北九州市を訪れた外国人旅行者数(万人)

韓国	台湾	中国	香港	その他	合計
34.3	17.0	11.4	2.1	4.3	69.1

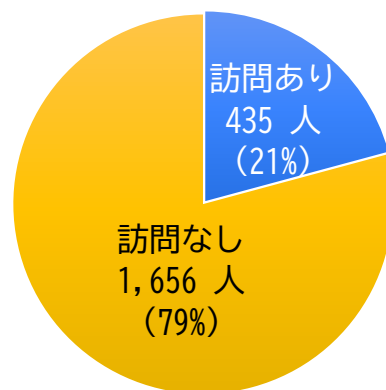
資料：北九州市観光動態調査

3 福岡空港からの入国者のうち、北九州市訪問は2割

2023（令和5）年に福岡空港で実施したアンケート調査では、九州へ入国した外国人旅行者のうち、約9割が福岡空港から入国しており、そのうち、北九州市には約2割の方が訪れているという結果でした。

福岡市から北九州市への移動においては、博多駅 - 小倉駅間は新幹線で約15分、特急で約40分と、1時間以内で移動が可能であり、この立地を最大限に活かしたプロモーションを行うことで、福岡空港から入国した外国人旅行者のさらなる誘致が期待できます。

福岡空港からの入国者の内、
北九州市への訪問割合



資料：福岡空港でのアンケート調査
(2023年8月1日～7日実施)

4 九州への入国者のうち、北九州市訪問は1割

2018（平成30）年に九州へ入国した外国人旅行者は、国土交通省公表データによると約511.6万人、北九州市を訪れた外国人旅行者は、北九州市観光動態調査によると約69.1万人となっており、北九州市を訪れた外国人旅行者の割合は13.5%です。

九州へ入国した外国人旅行者（※1）	511.6万人
北九州市を訪れた外国人旅行者（※2）	69.1万人
北九州市を訪れた人の割合	13.5%

資料：（※1）国土交通省 九州運輸局「九州への外国人入国者数」
（※2）北九州市観光動態調査

02 北九州市の課題

1 「北九州市」の認知度向上

北九州市は、歴史・文化・自然・産業・食などバラエティ豊かな観光資源を有しているにもかかわらず、認知度が不足しています。

2023（令和5）年に実施した海外の旅行博での来場者アンケートでは、「北九州市」の認知度が九州の主要都市に比べ低い結果となりました。訪問地として選ばれるためには、北九州市の「インバウンド観光都市」としての認知度向上が重要なカギとなります。

シンガポール旅行博来場者でのアンケート結果
(N=426)

Q. 以下の地名を知っていますか？



資料:シンガポール Japan Travel Fair来場者アンケート調査
(2023年9月29日～10月1日実施)

2 ニーズ・志向に合わせた観光コンテンツの発掘・磨き上げ

北九州市には、魅力ある観光コンテンツが数多くあるにもかかわらず、外国人目線による発掘・磨き上げが不十分など、ポテンシャルが十分に活かされていません。

令和5年度の「ウェルカム北九州！キャンペーン」で実施した電子クーポン事業の外国人旅行者動向調査等によって、多くのデータを取得しました。北九州市のポテンシャルを開花させるためには、このようなデータを活用して、外国人のニーズ・志向に合わせた誘客対策を行っていくという視点が重要です。



3 市内に点在する観光スポットの回遊性向上

北九州市は、多くの観光スポットを有していますが、外国人旅行者が快適に周遊できる十分な環境とは言えません。2023（令和5）年に実施した北九州市在住の外国人による座談会においても、周遊の難しさを指摘する意見が出ています。

そのため、観光スポットをつなぐ移動手段の確保など、外国人が周遊したくなるような環境づくりが必要です。

【在住外国人による座談会での周遊に関する意見】

①北九州市の不便なところ、困ると感じたところ

- ・公共交通機関の乗り方が分かりにくい（切符の買い方、バスの乗り方等）
- ・観光地が点在しているのでそこを周遊することが難しい

②他地域と比較し、北九州市のここがいいと思う！ところとその理由

- ・交通に関しては利便性が高いと感じた（新幹線があって空港もある）

4 九州の観光都市としてのプレゼンス向上

「北九州市の現状」でお示したとおり、2018（平成30）年に九州へ入国した外国人旅行者のうち、北九州市を訪れた外国人旅行者は13.5%となっており、九州の一角を成す観光都市と呼べないのが現状です。

そのため、「点」の視点ではなく、周辺都市などと広域で連携した「面」での誘客に取り組み、九州の中で行ってみたい観光都市としてのプレゼンスを高めていく必要があります。



V 北九州市のポテンシャル

V 北九州市のポテンシャル

場

- ・立地の優位性 ～交通の結節点～
- ・北九州市全域に広がるリソース

文化

- ・培われた歴史・文化の強み

人

- ・人々の暮らしに根差した日常や食の魅力

つながり

- ・海外とのコネクション
- ・広域連携の推進

1 「場」のポテンシャル

○ 立地の優位性 ～交通の結節点～

九州・中国・四国地方で唯一24時間利用可能な北九州空港、本州と九州を結ぶ鉄道の玄関口である小倉駅（全ての新幹線が停車する駅）があり、九州で最も外国人旅行者が多い福岡市の博多駅から新幹線で約15分、特急で約40分であること、また、関西や四国などを結ぶフェリーが就航しているなど、北九州市は国内外と繋がる公共交通の結節点であり、大きなポテンシャルを秘めています。

○ 北九州市全域に広がるリソース

北九州市は歴史・文化・食・ショッピング・夜景などが楽しめる都市型観光の拠点であることはもとより、海と山に囲まれ、豊かな自然に恵まれるなど、体験・滞在型コンテンツが揃っており、外国人旅行者の多様なニーズに対応することができます。

<北九州市の主な観光資源（エリア別）> *北九州市観光振興プランより抜粋

- ・小倉都心部（多様な魅力があふれる都市型観光拠点）
- ・門司港レトロ・和布刈地区（九州最北端の港町リゾート）
- ・平尾台（山を中心にした自然体験・滞在エリア）
- ・若松北海岸（海を中心にした自然体験・滞在エリア）
- ・皿倉・東田地区（北九州市のすべてを学び・楽しむ“まちごとミュージアム”）

2 「文化」のポテンシャル

○ 培われた歴史・文化の強み

歴史や文化を感じる小倉城周辺、大正ロマンあふれる港町・門司港レトロは、外国人旅行者に人気の観光エリアとなっています。

また、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「戸畑祇園大山笠」や、国指定重要無形民俗文化財に指定されている「小倉祇園太鼓」など、市内各所で行われているバラエティ豊かな祭りは国内外を問わず、旅行者を魅了する観光資源の一つです。

さらに、北九州市には、「いのちのたび博物館」や「スペースLABO」などの学習施設のほか、「TOTOミュージアム」や「安川電機ロボット村」などの企業ミュージアムもあり、公設・民設を問わず、幅広い分野にわたるミュージアムが立地していることも大きな魅力です。

加えて、海外でも人気が高い、漫画・アニメなどのポップカルチャーもインバウンド誘致が期待できるコンテンツの一つです。

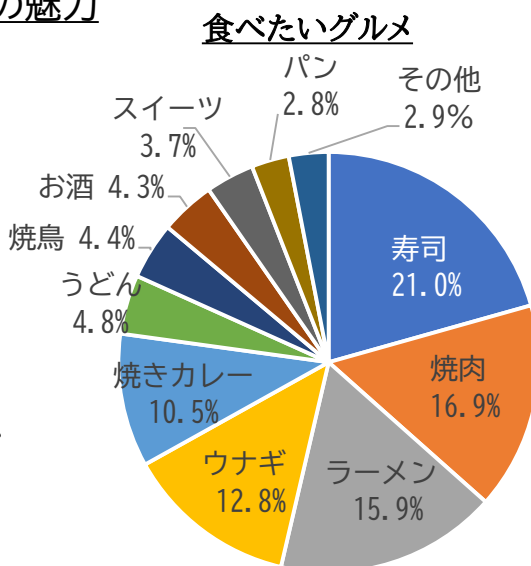


3 「人」のポテンシャル

○ 人々の暮らしに根差した日常や食の魅力

北九州市を訪れた外国人旅行者に対するアンケート結果によると、寿司、焼肉、ラーメン、焼きカレーなどの食文化体験、昭和にタイムスリップしたかのような風情と人情が味わえる市民の台所である旦過市場や商店街での買い物など、我々、市民の日常の暮らしを体感することが旅の楽しみになっています。

また、「外国人を受け入れる文化がある」、「人が温かい」などの声もあり、人情味あふれるこのまちの人々との触れ合いが外国人にとって魅力の一つとなっています。



資料：R5ウェルカム北九州！キャンペーン電子クーポンアンケート調査
(2023年11月20日～2024年2月21日実施)

4 「つながり」のポテンシャル

○ 海外とのコネクション

- (1) 国際協力や海外とのビジネス交流を通じて、多くの国や地域との関係を深めています。
- (2) フィルム・コミッションによる映画等の撮影の誘致、国際スポーツ大会やナショナルチームのキャンプの誘致、グローバルMICEの推進について、数多くの実績を有しています。
- (3) 北九州市には、TOTO株式会社、株式会社安川電機をはじめ、海外で活躍する多くのグローバル企業の存在があります。
- (4) 海外の6都市と姉妹・友好都市の締結を行っています。
- (5) 中国・大連事務所や自治体国際化協会シンガポール事務所などへの職員配置をしており、現地との連携を図ることができます。
- (6) 観光分野においても、現地旅行会社やランドオペレーター（※）、航空会社等とのつながりを有しています。

このようなネットワークを活かし、効率的・効果的にプロモーションを行うことができます。

(※)ランドオペレーター

現地の旅行会社の依頼を受け、国内のホテルやレストラン、バス等の手配を行う会社。

フィルム・コミッション誘致・支援実績

2018（平成30）年：54作品（タイ、台湾、中国、シンガポール）

2019（令和元）年：33作品（タイ、台湾、フィリピン）

2022（令和4）年：9作品（タイ、台湾、フィリピン）

2023（令和5）年：2作品（タイ、韓国）

※2020（令和2）年、2021（令和3）年は、新型コロナウイルスの影響により支援実績なし

姉妹・友好都市 ※締結順

- ・タコマ市（アメリカ）
- ・ノーフォーク市（アメリカ）
- ・大連市（中国）
- ・仁川広域市（韓国）
- ・ハイフォン市（ベトナム）
- ・プノンペン都（カンボジア）

○ 広域連携の推進

これまで北九州市では、下関市や福岡市のほか、熊本市、別府市、鹿児島市などの九州・山口エリアの自治体と連携し、インバウンド誘致に向けた取組を推進してきました。また、18市町で構成する「北九州都市圏域」による連携も行っています。2023（令和5）年度には、西日本・九州ゴールデンルートアライアンスが設立され、より広範囲な自治体との連携体制を構築しています。

これまで説明してきた北九州市のポテンシャルを活かし、北九州市とは異なる魅力を持つ地域と連携を強めることにより、広域的な視点で外国人旅行者の誘致を図ることができます。

西日本・九州ゴールデンルートアライアンス



Discover Unknown Japan.

大阪以西の地域において、陸・海・空で繋がる広域観光周遊ルートの創設・形成に賛同する自治体や民間事業者等で構成。

【アライアンス設立日】

2023（令和5）年9月24日

【アライアンス加盟14自治体】

※2024（令和6）年3月7日時点

北九州市、福岡市、神戸市、姫路市、岡山県、広島県、下関市、高松市、武雄市、長崎市、熊本市、別府市、宮崎市、鹿児島市

VI 目指す姿と戦略

VI 目指す姿と戦略

01 目指す姿

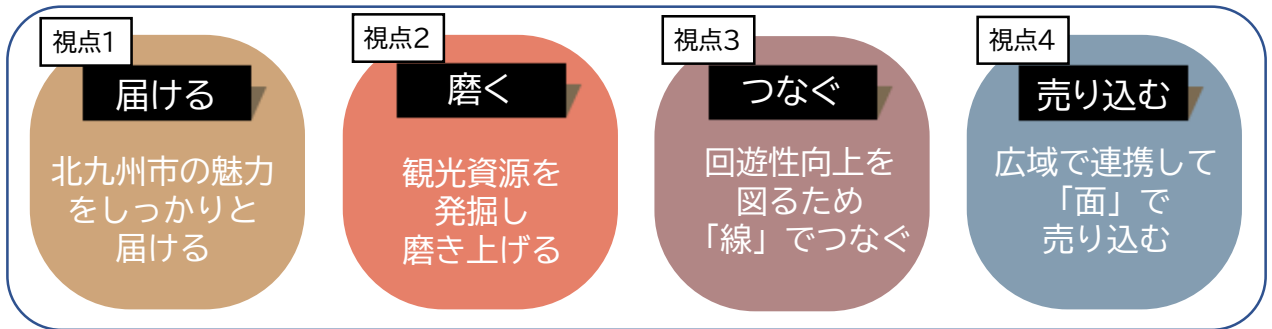
インバウンド観光における北九州市の課題、ポテンシャルを踏まえ、4つの視点に整理し、「インバウンドで稼げるまち」を目指します。

目指す姿

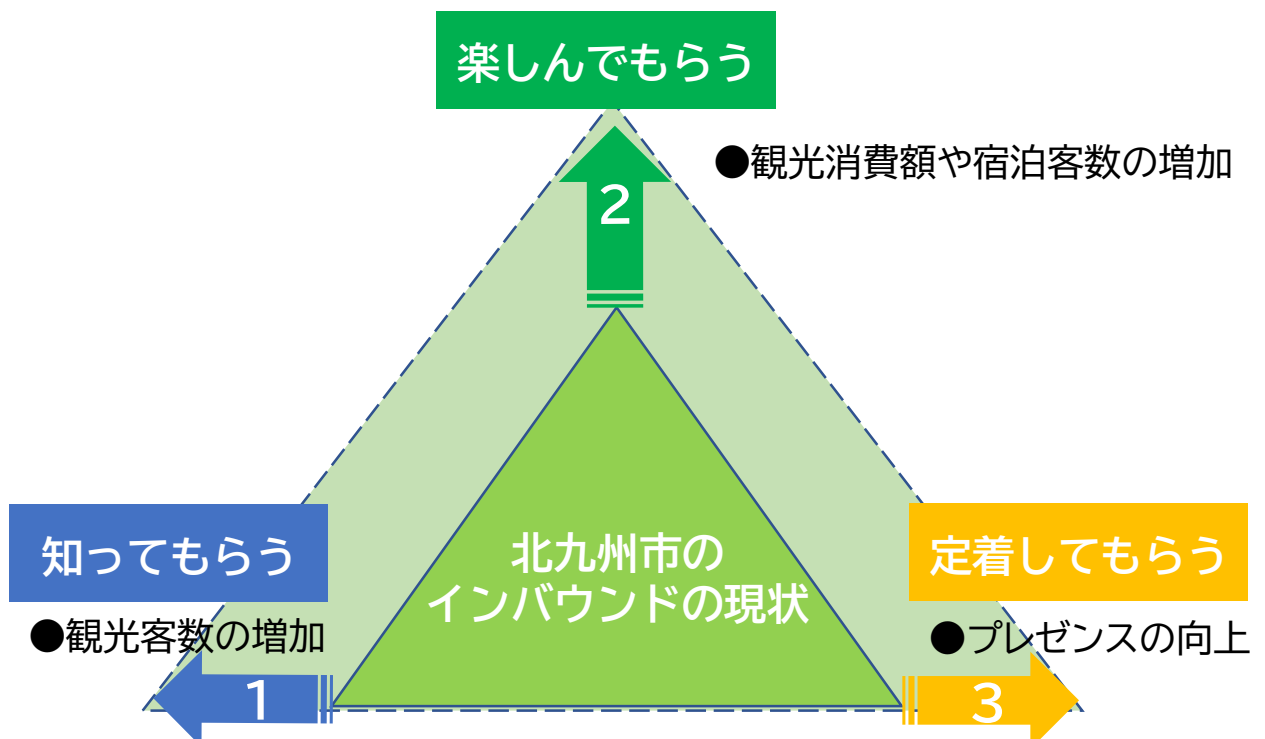
インバウンドで稼げるまち

～ポテンシャルを开花させ、九州で一番訪れたいまちへ～

実現のための4つの視点



インバウンド経済の拡大（イメージ）



02 | 4つの視点

視点1

届ける

北九州市の魅力
をしっかりと
届ける

北九州市は、歴史・文化・自然・産業・食などバラエティ豊かな観光資源を有しているにも関わらず、認知度が不足しています。

そのため、SNS・口コミによる情報発信の強化やデータに基づいたターゲット設定など、効率的・効果的に魅力を発信することが必要です。

視点2

磨く

観光資源を
発掘し
磨き上げる

北九州市の観光資源は、外国人目線による発掘・磨き上げが不十分など、魅力があるにも関わらず、ポテンシャルが開花されていません。

そのため、外国人旅行者へのアンケート結果やSNS分析結果等を踏まえ、NEWツーリズムや食のブランディング等を通じたリソースの活用、また、民間事業者等と一体となったおもてなしの強化など、ニーズ・志向に合わせた観光資源の発掘・磨き上げが必要です。

視点3

つなぐ

回遊性向上を
図るため
「線」でつなぐ

北九州市は、数多くの観光スポットを有していますが、市内に点在しており、外国人旅行者が快適に周遊できる環境になっていません。

そのため、外国人旅行者に向けたツーリストパス事業やモデルコースの造成など、市内にある観光スポットの回遊性を高め、外国人旅行者が周遊したくなるような環境づくりが必要です。

視点4

売り込む

広域で連携して
「面」で
売り込む

北九州市は、空港や全ての新幹線が停車する小倉駅があります。また、九州で最も外国人旅行者が多い福岡市からも新幹線で約15分など、立地の優位性があるにも関わらず、九州の一角を成す観光都市とは言えないのが現状です。

そのため、立地のポテンシャルを十分に発揮するとともに、周辺都市などと広域で連携した誘客に取り組み、九州の観光都市としてのプレゼンスを高めていくことが必要です。

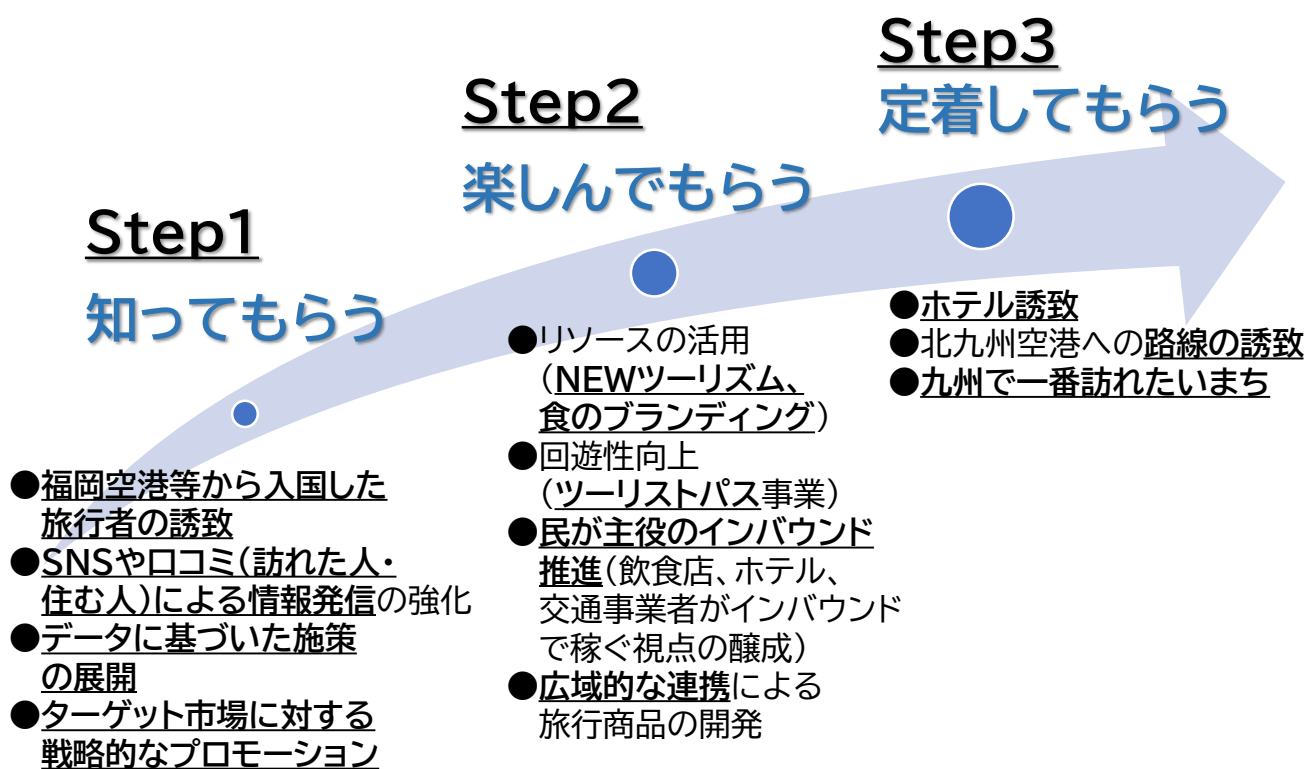
03 時間軸の視点とリーディング事業

本アクションプランの推進にあたっては、短期・中期・長期という時間軸を意識した観点も重要です。

短期的には、福岡空港等から入国した外国人旅行者の誘致やSNS・口コミによる情報発信の強化、データに基づいた施策の展開等を行い、北九州市を「知ってもらう」ことが必要です。

また、次のステップとしては、リソースの活用や回遊性向上のための取組、民が主役のインバウンド推進、広域的な連携等を行い、北九州市を「楽しんでもらう」ことにつながっていきます。

そして、このような取組等を積み重ねることで、中長期的には、ホテルの誘致や北九州空港への新規路線誘致を実現することによって、本市に「定着してもらう」こと、そして、「九州で一番訪れたいまち」を目指します。



04 | 目標値

■KGI（最終目標）

外国人観光消費額を最終目標であるKGIに設定します。消費額は、北九州市を訪れる外国人旅行者の滞在時間延長、観光消費額の増加等により、2025（令和7）年に400億円以上を目標とします。

項目	現状 (2022(令和4)年)	目標値 (2025(令和7)年)
外国人観光消費額	—	400億円以上

※KGIの指標である観光消費額算定の際の一人当たり観光消費額については、2023（令和5）年に実施した小倉駅でのインバウンド消費動向調査、また、国の「観光立国推進基本計画」を参考に算出。

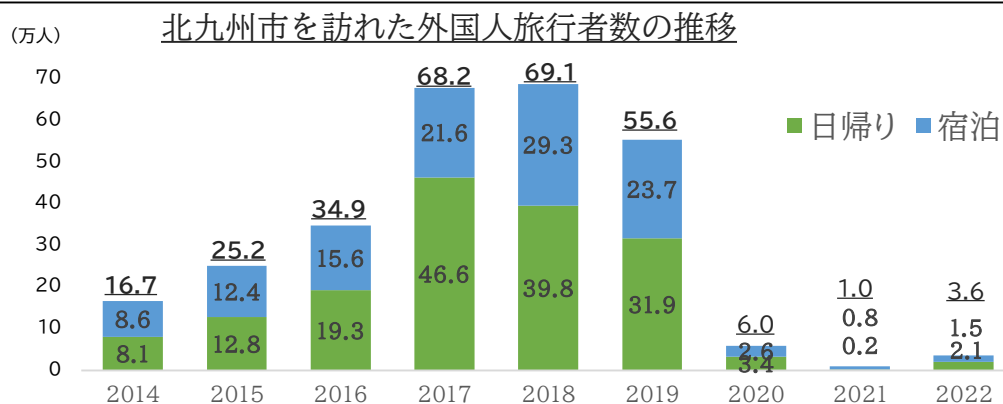
■KPI（KGIを達成するための指標）

福岡空港等から入国した外国人旅行者の誘致等により、2025（令和7）年における外国人日帰り観光客数40万人以上、外国人宿泊客数30万人以上を目標とします。

項目	現状 (2022(令和4)年)	目標値 (2025(令和7)年)
外国人日帰り観光客数	2.1万人	40万人以上
外国人宿泊客数	1.5万人	30万人以上

※KPIの指標である外国人日帰り観光客数、外国人宿泊客数に関しては、北九州市観光動態調査の結果に基づき算出。

- ・取組期間前半（2024年～2025年）で、各指標が北九州市外国人観光客数がピークであった2018（平成30）年水準以上となることを目指します。
- ・取組期間後半（2026年～2027年）のKGI、KPIは、前半の取組状況や国際情勢などを踏まえ、観光振興プランのKPI再設定時期に合わせて検討します。



資料：北九州市観光動態調査

05 | ターゲット市場

(1) アジア

■ 重点市場

これまでも重点市場として誘客に取り組んできた市場。

国・地域	選定理由
韓国	○北九州空港への直行便運航中（予定含む） ○福岡空港の直行便数の多さ ○コロナ禍前の2018年の九州への入国者数及び北九州市を訪れた外国人数の上位3か国（地域含む）
台湾	
中国	

■ 戦略的重点市場

福岡空港に直行便がある市場のうち、戦略的に誘客することで、北九州市へのさらなる誘客が期待できる市場。

国・地域	選定理由
タイ	○フィルム・コミッションでの誘致実績やスポーツによる交流など北九州市との関係性が深く、これまでの取組を活かした誘客促進が図れる。
シンガポール	○個人旅行の比率が高く、アジア市場の中で一人当たりの旅行支出額が高い。 ○2019年の福岡県内の宿泊者数が全国で10位以内であり、北九州市への誘客促進の可能性が高い。 ○シンガポールは、対日投資事業での取組や自治体国際化協会への職員派遣など関係性が深く、また、アジア市場の中で一人当たりの旅行支出額が最も高い。
香港	

(2) 欧米豪

■ 新規開拓市場

国・地域	選定理由
アメリカ	○日本へ訪れる旅行者が多く、また、滞在日数も長い ため、一人当たりの旅行支出額が高い。
オーストラリア	○「西のゴールデンルート」の関係自治体等と連携した 広域周遊ルートを構築し、北九州市への来訪が期待 できる。 ○福岡県や九州観光機構が現地に販売代理店を設置して おり、その拠点を活用した誘客が期待できる。

【参考】令和5年度「ウェルカム北九州！キャンペーン」による
電子クーポンの国・地域別利用状況（人数順）

順位	国・地域	人数	区分
1位	台湾	17,672人	重点市場
2位	韓国	16,332人	重点市場
3位	香港	10,116人	戦略的重点市場
4位	タイ	4,124人	戦略的重点市場
5位	中国	1,395人	重点市場
6位	シンガポール	284人	戦略的重点市場
7位	オーストラリア	170人	新規開拓市場
8位	アメリカ	122人	新規開拓市場
-	その他	799人	-